

C-37 モアレリーフによる体型分類の一考察

楊山女学園大家政 土井サチヨ 中保淑子 富田明美 津野敏子

1 目的

生体におけるモアレ等高線パターンは、人体複曲面の3次元把握は勿論、体型特性の重要因子である姿勢、部分体型の形状、動作機能、体質などを包含したすべての情報が与えられる。従って、多くの体型のモアレ縞による個人的特徴を観察し、分類して、動体におけるこれら有機的な要因についての類型化を試みたいと考えた。今回は、上肢拳動で最も有機的に変化する背面をとりあげ、まず、静立時について検討した。すなわち、自然立位姿勢におけるモアレ縞次数および、その形状と背入角、また、肩甲骨棘突起周辺の様相と脊柱形状の関連を追求し、姿勢および、背面のかたちについて考察した。

2 方法

実験機器および、撮影方法は前報と同様であり、新たな実験条件は次のようである。

被検者：女子学生100名（年齢20、21才）撮影期間：昭和53年5月7日～31日

3 結果

- 1) 正中におけるウエストの入り角度は、姿勢によって決定され、肩甲骨棘突起位における入り角度は、背面シルエットを形成し、衣服設計上、重要であることがわかった。
- 2) 肩甲骨棘突起周辺のモアレ縞の形態は、6分類することができ、2極が左右均等で平衡にあらわれた型が約40%を占めた。
- 3) 背腹部にあらわれたモアレ縞のパターンは、W型、ω型、U型、V型に分類でき、これらは、背腹部のからだつきをあらわしている情報として有効であることが認められた。